

令和元年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部
鹿児島県知事表彰 優秀賞

「 災害への備え 」

曾於市立財部小学校 5年 ^{いのうえ}井之上 ^{なおむ}尚武

災害はいつどこでおこるか分からない。災害は予測することができない。それは、災害の最もおそろしい部分である。予測不可能な災害がいざおきてしまったとき、少しでも被害を小さくするために考えたことがある。

まず、何よりも先に守らないといけないものがある。それは、自分の命だ。どれだけ周りの人を助けようと思っても、自分自身が命を守るという意識を持っていないと、助かる可能性が低くなってしまう。学校でも、ひなん訓練が1年間に3回ある。訓練の度に、先生方から、

「自分の命は、自分で守りましょう。」

と繰り返し、指導をされる。低学年の頃は、あまりちゃんと考えることはなかった。しかし、5年生になり、その意識と大切さに気付けるようになった。どのようにして自分の身を守るのか、今まで訓練で習ったことをしっかりと自分のものにしていきたい。

次に私の家庭では、もし災害がおきてしまったときに、家族がバラバラになってしまうことがないよう集合場所を決めている。

テレビのニュースなどを見ていると、

「家族とはなればなれになってしまって、とても不安でいっぱいです。」

という人や

「連絡がつかずに、生きているのか、分かりません。」

など、大切な家族とはなれてしまって、不安がより増してしまっている様子が伝わってくる。インタビューを何回も目にした。急な災害にあったことと家族とはなれてしまったことが、よりショックを大きくしているように思えた。

だから、私の家族では、急な災害がおきてしまっても、家の庭にあるぶどうの木に集合するというルールを決めた。家族が集まることで、一緒に行動することができ、どこにいるのか、という不安を取り除くことができる。私自身もどこかで急に災害にあってしまったときに、戻るべき場所が分かっていることで、そこを目指して避難することができるので、落ちついて行動することができる。

最後に自分一人では、できることではないが、もっと災害に対する施設などの整備をしていかないといけないと思う。今まで、多くの災害に対する施設が作られてきた。大雨が降ったときに、水がすぐにあふれてしまうことがないようにダムを作ったり、津波や台風の対策として、防波堤を作ったり、さまざまな工夫がされてきている。しかし、それ以上の大きな力を持った災害が、多くおきている。災害にあった対策をもっと考える必要があると感じる。より、災害に強い家であったり、安全に住むことができる家を作ったり、工夫の仕方はいろいろあると思う。将来、自分の家を建てる時は、考えて作りたい。また、落ちついて避難した後には過ごすことができる場所も必要だ。避難した後は、知らない人たちと一緒に生活することになる。落ち着いて過ごすことができずに、もっとストレスを感じるかもしれない。一人一人の家を建てることはできないかもしれないが、落ち着いて暮らせる空間をそこに作ることでいいなと思う。

自分が住んでいる鹿児島県では、ぼくが生まれてからはあまり、大きな災害はおきていない。しかし、となりの熊本県では大きな地震がおきた。自分の街で、絶対おきないと言えないのが災害である。もしおきてしまった時に、落ち着いた行動をとり、周りの人と助け合い、災害を乗り越えていきたい。そして、何度も災害を乗り越えることができた日本人らしく、自分も行動していきたい。